

第3回新市の名称に関する小委員会会議録

日時：平成16年2月17日（火）

午後2時22分から

会場：デュオ・セレッソ

区分	市町村名	役職名	氏名	
規約第8条 第1項第2号の委員 (構成市町村の議会の議長及び構成市町村の議会が当該構成市町村の議会の議員のうちから選出する者)	上越市	上越市議会総務常任委員長	早津輝雄	
	安塚町	安塚町議会副議長	松野恵	
	浦川原村	浦川原村議会環境建設常任委員長	石田敏一	
	大島村	大島村議会議員	丸田伸一	
	牧村	牧村議会議員	宮本富男	
	柿崎町	柿崎町議会議長	新澤明一	
	大潟町	大潟町議会合併問題特別委員会委員長	内山米六	
	頸城村	頸城村議会議員	布施兵衛	
	吉川町	吉川町議会副議長	吉村一博	
	中郷村	中郷村議会副議長	豊岡真一	
	板倉町	板倉町議会副議長	島田武	
	清里村	清里村議会議員	保坂隆男	
	三和村	三和村議会副議長	松縄教一	
	名立町	名立町議会議長	塚田正	
規約第8条 第1項第3号の委員 (学識経験者その他の者で構成市町村の長が協議により必要と認めるもの)	上越市	上越市町内会長連絡協議会会長	田中昭平	
	安塚町	安塚町商工会長	横尾新一	
	浦川原村	浦川原村まちづくり研究委員会委員	内山美恵子	
	大島村	大島村合併協議会委員	山岸幸子	
	牧村	牧村住民会議準備会委員	江口理恵子	
	柿崎町	柿崎町農業委員	神岡八江子	
	大潟町	大潟町教育委員	大浜啓子	
	頸城村	頸城村自治会長協議会会長	大場崇夫	
	吉川町	吉川町男女共同参画計画策定委員会副委員長	岩井栄子	
	中郷村	中郷村合併検討委員会委員	杉本優子	
	板倉町	板倉町合併推進委員会委員	増村恵子	
	清里村	清里村合併推進委員会副会長	細谷愛子	
	三和村	三和村合併推進協議会会長	近藤一郎	
	名立町	名立町市町村合併審議会委員	久保埜朝子	
共通	えちご上越農業協同組合代表理事副組合長	笹川一成	欠席	

議 題

1 審議

(1) 審議の進め方について

(2) 新市の名称についての議論

2 その他

午後 2 時 22 分 開会

○小菅宏造事務局総括 ご苦労さまでございます。協議会に引き続きまして新市の名称に関する小委員会、第 3 回でございますが、ただいまから開催させていただきますが、開催にあたり、事務局から連絡をさせていただきます。本日笹川委員長が所用のため本小委員会に出席することができません。かわりまして、今回は小委員会規程第 5 条第 4 項の規定により、田中副委員長から議事進行いただきますので、ご了解をお願いいたします。

なお、本日の小委員会につきましては最大で 2 時間、協議会が早く終わりましたので、2 時間以上でございますが、最大で 4 時半というめどで審議を進めていただければと思います。また、前回同様でございますが、会議録を作成する都合でございますので、発言するときは必ずマイクの使用をお願いいたします。係に手を挙げていただければ、係がマイクを持ってまいりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、田中副委員長、よろしくをお願いいたします。

○田中昭平副委員長 ただいまお話がありましたように、これから第 3 回の新市の名称に関する小委員会を開会いたします。

本日は、今ほど事務局からも説明ありましたように、笹川委員長にかわりまして上越市の田中でございますが、議事の進行を担当させていただきます。よろしくをお願いいたします。

それで、本日は委員 29 名のうち 28 名のご出席でありますので、小委員会規程第 6 条第 2 項の規定によりまして、会議は成立しております。

今回の会議録署名委員は、上越地域合併協議会小委員会規程第 10 条の規定において準用する上越地域合併協議会の会議の運営に関する規程第 3 条第 2 項の規定によりまして、牧村の宮本委員、柿崎町の新澤委員をそれぞれ指名させていただきます。よろしくをお願いいたします。

○

- 1 審議 (1) 審議の進め方について
(2) 新市の名称についての議論

○田中昭平副委員長 それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。

まず、審議についてですが、(1) 審議の進め方について、一応事務局から資料が用意されておりますので、説明を求めます。

じゃ、事務局、お願いいたします。

○小菅宏造事務局総括 それでは、お手元に用意させていただきました次第にのっとりまして、(1) 審議の進め方、資料の方は 1 枚めくっていただきまして 2 月 17 日付、本日付の小委員会資料ということで、○審議の進め方という四角でくりましたペーパーを用意させていただきました。これは、前回の第 2 回の小委員会におきまして、審議の進め方について皆様からいろいろなご発言をいただいたものを要約したものでございます。今後の審議に向けまして、皆様からこうした話がいいんじゃないか、あるいはこうではないかというふうな、いろいろなご発言をいただいたものをまとめたものでございます。これを今回整理する中で、これを踏み台にして本日から本格的な議論をいただければと考えております。

それでは、中について読ませさせていただきます。第 2 回小委員会の発言よりということで、要約でございますが、1 番目に前回の議論の内容といたしまして、市名について意見交換を行い、委員会としての共通認識を見出すための議論を行うということで、変えない場合、変える場合を含めての共通認識や相違点を整理してはいかがかということで、論点の整理に向けたご発言があったかに思います。それから、具体的に変える、変えないではなくて、市の名称を考え、判断するための手法、手続がいかにあるべきか、どうした形がよりよいかという形のご発言もあったと思います。それから、その他の議論としてということでございますが、この市の名称についての活発な、いろいろな議論を通じて、この市町村合併についての認識を深め、新しいまちの一体感が生み出せるような、そういう建設的な取り組みということでございませうか、取り組みが求められていることも考慮して、大いに議論を

活発にするべきだというふうなご発言があったかと思えます。

それから、2 番目といたしまして、決をとる、とらないのお話が若干ございまして、それをめぐりましてご意見をいただきました。その中で委員会の議論の方向性として、採決を行って無理に一つの方向を白黒出すということではなく、いろいろな視点から議論した結果に基づいて、できればでございますが、委員全員が認め得る方向を目指すということが方向としてよいんじゃないかというふうなことのご発言、あるいは委員長のお話があったかと思えます。

3 番目として、小委員会報告ということで、さまざまなそうした議論が想定されるわけですが、共通認識を得られて、その共通認識をもとにある一定の方向を見出す、そういうことが可能であれば報告としてまとめることはどうかと。それからまた、そうした報告にはもちろん全員の合意のもととなると思えますが、認識や意見の違いを付することもあり得るのではないかというふうにとらえました。

以上、大きくりでございますが、前回の審議の進め方についてのご発言をまとめますと、このようなカテゴリーになりまして、このような内容かと思えます。これから、きょうが第3 回目でございます。あとは、協議会に合わせましてのスケジュールが中心となりますが、4 回目が3 月6 日と、5 回目がまだ日程がはっきりしておりませんが、3 月下旬、そして協議会がありまして、3 月末に恐らくは協議会に対しての小委員会の報告があるようなスケジュールになろうかと思えます。そうした日程をにらみながら、いよいよ入り口のいろんなどあるべきかを終えまして、具体的にこれらの項目についてご発言をいただきながら考え方、あるいは共通認識など得られれば、そういうものを整理していければということと先回の議論を受けとめて、このペーパー用意させていただいた次第でございます。これを前提に、本日からここご論議いただければというのがご提案でございます。

以上、よろしく願いいたします。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

それでは、今審議の進め方について、今ほどの事務局よりの説明に沿って、意見が出た場合はその意見を参考に進めることでよろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田中昭平副委員長 それでは、審議の進め方についてよろしければ、今ほどの事務局説明、それから(2) 番の新市の名称についての議論について意見交換を行いたいと思えます。

なお、前回の小委員会においては委員長からもお互いに意見交換しながら議論し、共通の話題をどこかで見出しまして、それを一定の方向にしていくというような方法によりまして、この委員会としてのまとめというものをを出していきたいと、まとめがあったところであります。このことを前提としながら本日の議論を進めたいと考えておりますので、委員の皆さんにその点はまずご理解をいただきたいと思えます。

なお、副委員長といたしましてさらにまた補足してお願いするならば、変更する、しない、あるいは上越市という名称についてどう思うかについてより具体的に論じまして、さらにその理由についても述べてもらえればと思っております。また、それらへの賛成、反論も積極に出してもらいたいと思えます。発言が余りなかった場合には、副委員長の方から時々指名し、また今回は女性の委員もたくさんおられますので、特に女性の委員からも率直なご意見、発言をお願いしたいと思えます。

そんなようなことで、私は今ここに立ちまして思うに、小委員会は五つの部分に分かれておりますが、この新市の名称を決める委員会は非常にやがて合併をしようという21 万の住民、市民の総合的視点、背景に立って、極めて格調の高い、文化的な要素を多分に占めた小委員会でありまして、他の小委員会とちょっと性格が違うものであります。そして、13 町村の皆さんがそれぞれの長くお住みになられた地域性や、あるいはその町村の名前、名称、そんなようなことも十分ひとつ深い歴史的な中に考えられることもたくさんあると思えます。今ここに合併しようというときに、この新市の名称というのは大変意義深いものがあります。そういう意味におきまして、早急にイエス、ノーというような短兵急な結論を出すんじゃないでなくて、皆さんの心情を十分出していただきまして、この大同団結した21

万の新生市に、その名称はどうあるべきかというようなことを淡々と、皆さん、ひとつ披露していただければ幸いかと、こんなふうに思いますので、特に副委員長としてつけ加えて申し上げていただきます。

では、委員の皆さん、3回目でございますが、それぞれの委員の考えがありましたらご意見を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。町村名とお名前をひとつお願いいたします。

- 吉村一博委員 吉川町の吉村です。前回まで今後の審議方針について議論があって、きょうそれが決まったわけですけれども、初めて吉川町議会の中の話をしていただきたいと思います。それで、このことについては特別委員会でも何度か議論をしてまいりました。事務局がまとめていただいたこの議論の内容、非常にまとまっているんじゃないかと思いますが、この中に私どもの意見が集約されているような気がいたします。丸の3番目でございます。その他の議論であります、うちの委員からもこれと同じような意見が出されたと思いますけれども、この中の新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みが必要だろうと。それは、どういうことかというのはこれからの議論になると思いますが、そのことがやっぱり私たちの吉川町の端の町ですけれども、これから一緒にさせていただく、していかなきゃならんという考えの中に深くあるというふうに私どもも思っています。そんなことで、私どもは上越市という名前を変えようという意見はございません。上越市も含めてどういう名前がいいのかと。それをみんなに聞いたらどうだと。聞く方法はアンケートがいいのか。抽出されたものがあるのか。それは集まった人たちでいいのかというのはありますけれども、その詰めた話はアンケートだろうかなというのはありますけれども、特にこだわらないけれども、先ほど言いましたように新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みをしてほしいということでございます。

以上です。

- 田中昭平副委員長 ありがとうございます。

ほかにございましょうか。

- 新澤明一委員 柿崎の新澤でございます。ちょっと確認させていただきたいんですが、先般の資料4の中で第1回新市の名称に関する小委員会の意見についてのまとめという中の手順のところの一番最後に、アンケートについても実施の必要はないと考えると、こういう文言があるんですが、先般だか、第1回だか、かなりアンケートとろうという話があったんですが、これはどういう意味をしているのか、ちょっとお聞きしたいんですが。

- 田中昭平副委員長 じゃ、事務局、その点。

- 小菅宏造事務局総括 お答えいたします。

前回の資料4の説明をする際にお話し申し上げた部分ではございますが、説明が不足でございますでしょうか。この小委員会の役割を考えたときに、合併協議会から与えられた役割を考えたときに、基本的には最終判断という場ではないという中で、議論を行う場という整理をさせていただきました。具体に変えることを含めて、アンケートによって実際の手段としてそういうことに踏み込むことは、この小委員会の役割としては与えられていないというふうに整理させていただいてございます。最終決定は協議会ではございますが、こちらにはそうしたアンケートをする、しないの判断を求められた委員会ではないというふうに整理させていただいたことでございます。

- 新澤明一委員 そうするというと、この委員会でアンケートをとれというのが多数であっても、小委員会の意見として上へ上げないということなんですか。

- 田中昭平副委員長 事務局。

- 小菅宏造事務局総括 この委員会で、意見のまとめり方にもよりますが、全員一致でそういうようなご意見があって、そのことを協議会に対してというお話であれば、それは委員会のご意思だとは思いますが、この委員会の権能をもってアンケートを実施することを決めることはもちろんできませんし、また協議会においても、それは協議会の中の議論であります、今それを決める、決めないについては判断はできません。

- 田中昭平副委員長 よろしいですか。

- 新澤明一委員 はい。
- 田中昭平副委員長 ほかに今のアンケートの件、ご意見ありましたら、
じゃ。
- 近藤一郎委員 三和村の近藤でございます。事務局の今の返答、それは違うと思います。確かに実際にアンケートするか、しないかはここで最終決定するんじゃないです。しかし、委員会としてアンケートを仮にやるべきだというふうに委員会の意見がまとまれば、そりゃここで決定でないけど、そういうものは小委員会としてはアンケートをやるべきだという取りまとめに至りましたという報告はしなきゃだめです。そういう意味でしょう、事務局の言いたいのも。
- 田中昭平副委員長 事務局、確認ということで。
- 大山仁事務局総務チームリーダー かわりまして、お答えさせていただきます。
前回委員長の方からもみずからお話があったということをお記憶しておるんですが、アンケートについても議論の結果として小委員会の考えを申し上げて、実施の要望があったということをお報告という形で議論の意義を見出すという、そういうことについてはあり得るのではないかとということで、協議会自身が実施をするということはちょっと難しいというお話です。今後のいろんな市の名称を考える中で、手法としてあるのではないかとというふうなことは考えられるのではないかとというふうに委員長の方も発言したというふうに記憶しておりますし、そういった整理で前回整ったものと理解しておりますので、よろしくお願いたします。
- 田中昭平副委員長 近藤委員、よろしいですか、それで。
- 吉村一博委員 関連。私どももアンケートは頭の中にあります。それで、この会でやれるものじゃないと思っています。各町村から代表して出ているわけですから、このみんなが合意して、じゃアンケートも必要だろうということになれば、実施主体は市町村に私らは考えているんです。市町村長に一定の時期にやってほしいと。その結果を上越市がどういうふうに判断していただくかと。最終決定は上越市の市議会がやられるわけですから、それまで制約はできません。決めたって、市議会がノーと言えだめなわけですから、私どもはこの委員会でアンケートと言うならば、実施主体はやっぱり市町村だろうというふうには考えていますけど。
- 田中昭平副委員長 事務局、その件について、市町村の。
- 大山仁事務局総務チームリーダー まさにそのとおりだと思いますし、そういったことを含めて議論を深めていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。
- 田中昭平副委員長 今新市の名称の過程、進め方について、内容にちょっと触れているわけですが、アンケートというような案件が一つ出された、こんなようなこと。そのほかございませんでしょうか。
- 宮本富男委員 牧村の宮本です。副委員長、各自治体が態度決めてきていると思うんです。だから、各自治体の意見を全部聞いちゃって、その上に問題点は、じゃ何なのかということをしてないと、いつまでやっても繰り返しです、行ったり来たり、行ったり来たりで。だから、結論ではないですけども、各自治体の意見というものを全部聞いちゃって、一通り。それによって、どういう方向でいくかということをおままた議論すればいいんじゃないですか。今個人、個人にああでもない、こうでもない言っただって、どうしようもないと思うんです。その点よろしくお願いたします。
- 田中昭平副委員長 今牧村の宮本委員から出されたこのご意見について、皆さん、どうですか、何かお考えありましたら。
- 新澤明一委員 先ほど私らは私どもの町村の意見を申し上げましたので、それでいいと思いますけど、ほかにご意見があればお願したらいいんじゃないですか。それは、みんな代表して来ているわけですから、意見を言うべきだし、言わなきゃまずいでしょう。
- 田中昭平副委員長 どうでしょうか。今もしそれでご異論がなければ、それぞれ市町村の立場で、それぞれお帰りになって、協議をして、結論でなくても方向性というものを持ってこられた方もあると思いますし、さらに一歩進んで具体的にこんなような考え方で進めたらどうかというようなこともあ

るでしょうし、それらについて今の宮本さんから発案ありました件を町村ごとにご説明していただくというようなことでよろしゅうございますか。

じゃ、近藤さん。

○近藤一郎委員 副委員長、余りあっちから、こっちから一気に振らないでやってください。

三和村の近藤なんですけど、私ども三和村では新市名に対する協議は2回だったか、3回だったかしました。ところが、あえて取りまとめ、結論にはしてありません。というのは、この委員会がまだ動いているからなんです。この委員会で結論めいたものをどうも三和村として取りまとめをして、結論めいたものを持っていかなければならんという判断を私どもはまだしていないということです。だから、私どもは三和村としてはこの委員会に出席させていただくにあたって、過去3回ほどこの小委員会では今こういう進みぐあいです。皆さん、何かご意見ないでしょうか。こういうのはどうでしょうかという状況なんです。ですから、少なくとも三和村はこの新しい市の名称については最終的に取りまとめしてありませんということですから、おまえ、それだけしゃべったんだから、それは三和村の現状でいいんじゃないかということならそういうことなんですけど、三和村はそういう状況ですので、副委員長の方も了解、承知をしておいていただきたい。

そこで、これ議論やっていますとあれなんで、またおまえは余計なことと言われそうですが、一つ考え方として一歩踏み込んだ話を少しちょっと話をさせていただこうかなと思うんですけど、その辺、副委員長、よろしいでしょうか。

○田中昭平副委員長 ちょっと待ってください。今宮本委員から出たのは町村ごとのもしお考えがありましたらご説明していただきたいということで、今近藤委員のおっしゃったように三和村ではそういう現状であるということなら、そのようにお話ししていただければいいんであって、別に方向づけを決定づけるような結論を私のところではまだしていないとか、してあるとか、いや、現状はこんなふうになっていると、そんなようなことを今牧村の委員さんの方から一応町村の今までの段階においてお上げしてもらったらどうかということなんですけど、そのことについてなんですけど、今皆さんの意見を聞いたら、別に異論がないと。たまたま今近藤委員の方から、いや、ちょっと待ってくださいというふうなことでその話をされたんだが、今のお考えで町村のこととしてご意見を発表なさってもいいんじゃないでしょうか。どうでしょうか。もし今の段階ではまだそういうところまで話し合っていないというんなら、またそれでいいと思いますし。

牧村の委員さん、どうでしょう。それでいいんでないでしょうか。

○宮本富男委員 それでいいと思います。

○田中昭平副委員長 それでいいと思うと。

どうですか、近藤さん。

○近藤一郎委員 承知いたしました。副委員長はそういうふうにおっしゃられるわけですので、それに私の方でも従ってまいりたいと思います。

○田中昭平副委員長 よろしいですか。

○吉村一博委員 先ほどちょっと考えが少しまとまっていまませんでしたので、今再度申し上げますが、今の方法でいくと、町村からも女性の方が何人か見えているようなこともありますし、そういう方たちを副委員長は、きょうは女性の方も大勢見られているんだから、意見を聞きたいというようなことはあったわけです。ここで各町村の私どもがどんどん、どんどん発言したときに、その人たちがちょっと困るんじゃないかというような気がしたもんですから、町村の代表の方が話をする前に女性の方が女性の目でどういうふうにご覧になっておられるかというのを聞いた方がいいんじゃないかと思ったんですけど。

○田中昭平副委員長 大変いい発言をしてくださいますして、まさに男女共同参画型社会の一つのあれで、女性の皆さんから大いにご発言していただけたら、私は副委員長として考え方をかいつまんで話したとおりでございますして、今本当によいアドバイスをさせていただきますしてありがとうございました。

せっかくですから、まだ女性の方一名も発言していなさんですけど、この機会に本当に皆さんの気

持ち、それをしてください。余り政治的に難しい問題として考えてしまうと、なかなか発言の機会できない。町村とお名前お願いします。

- 岩井栄子委員 吉川町の岩井と申します。確かに前回もまた何も何か言えないような雰囲気ですけれども、今回もそういう雰囲気になっちゃったらどうしようという思いもあったんですが、やっぱりいろんな方向はあると思うんですけれども、せっかく私らもここに来ておりますので、幼稚な考えかもしれないけれども、やっぱり聞いてもらいたいという思いはありますので、今うちは吉川は議会の立場で吉村が話をしましたし、私は本当に一町民として意見を申し上げたいと思います。

資料をお願いしますということで、事務局の方から資料いただきました、前回。じっくり資料読ませていただきました。見る中で、本当に編入というのは、市名の変更というのはほとんどしていないんだなというのをその資料の中で実感しました。だけれども、決まりはそうなんだけど、でもやっぱりみんなで考える機会はあった方がいいんだらうというのが私の考えです。資料を見ながら、私どもが今進めているこの14市町村の合併というのは、本当に数が多いんだなというのをまた改めて感じました。広いんだなと思いました。どの市町村もそれぞれ地域性を生かしたまちづくりを進めてきた中で、さあ、一緒になりましょうと言っても、なかなか理解し合えないところばかりなんではないかと思えますし、最後は地域エゴが随所に出てしまうんだらうというふうに思います。でも、自分自身考えてみますと、生活の中で私は長年上越に職場も得ておりましたし、買い物もほとんど上越で過ごしておりますし、病院も、子供の学校もというふうに、いろんな催し物があれば上越にも出かけられますし、私の生活の中でやっぱり上越というのは潤いを与えてくれる場所でもあります。

そういうふうに考える中で、じゃ今度上越の人たちは、上越の中心街に住んでいる人たちは、山間地域の生活がどんなものであるということを実際に理解していただいているだろうかという思いもあります。里山の手入れとか、棚田を守っていくというのは、やっぱりそこに人が住んでこそ山が生かされるのであって、そこは経済性は本当はないんだらうけれども、やっぱりそこには上越で確かに利益が上がったものをそこへ税金として投入するということは本当に大事なことで、自然環境を守るということを私は市民、まちに住んでいる方もその点を考えてもらいたいという思いがあります。こういうふうにお互いの理解を深めるというのは、新市名を考えながらそのことを互いに深めていけないうだろうかというのが私の考えです。

たくさんの難しい課題が山積する中でこの新市名に取り組むことは時間的にも、経済的にも本当に難儀なことなんだらうとは思いますが、将来この広い地域がお互いに理解し合いながら発展を遂げていくには、やっぱり今ここで踏ん張って、頑張って、これをみんなで考えていくのがいいんだらうというふうに思います。それが今目標に上がった協働のまちづくりであり、海に、山に、大地に、なりわいと文化あふれる20万都市、上越に近づけることではないだろうかというふうに考えます。ペーパーの上だけでのきれいな文句だけじゃだめなんであって、やっぱり実践が伴わなければだめだと思いますし、結果は名称を変えるのか、変えないのか、どうであろうとも、その過程というものを私は本当に大事にしたいというのが私の考えです。

以上です。

- 田中昭平副委員長 ありがとうございます。

- 内山米六委員 大潟町の内山と申しますが、新市の名称を議論するにあたって、私どもが町村それぞれの代表であることは間違いないんですが、そういった立場を超えて私どもが新市、新しい市になれば新市の住民になるわけです。そういう今市町村という枠を超えた議論というのが必要じゃないかというふうに私は思います。だから、新しい市の住民になったときに上越市の名前がいいのか、あるいは変えてほしいのかと、そういう判断をしないといけないんじゃないかというふうに思うんです。したがって、各市町村で決めてきているという内容はともかくとして、それぞれの気持ちを皆さんが発表し合ったらいいと思いますし、28名が一緒になって意見を言いなさいというのもなかなか無理があるというふうに私は思っているんです、この3回の小委員会を通じて。したがって、できれば小委員

会をさらに二つなり、三つに割って、グループの討議しながら、皆さんが腹の底から全部出し合っていて、それをまとめ上げて、発表し合って、一つの方向にまとめていくというやりの方が早いと思います、これ。私はそうと思いますが、皆さんの意見聞かせてください。

- 田中昭平副委員長 今ご意見として承りましたが、合併協議会として小委員会に付託された構成で協議してくださいということでございますので、これを三つ、四つにサブグループに分かれて討論することは、今のところそういう点は会議の進め方としては考えていない。この点について、事務局、見解がありましたらちょっと話して。

〔何事か呼ぶ者あり〕

- 大山仁事務局総務チームリーダー それじゃ、お答えいたします。

これ事務局の考えです。また、皆さんのご議論にもよるんですけども、小委員会でものを決定するというのであれば、今までの準備会の中で、グループ協議の中で合併の期日とかを決めたりとかという決定をするにあたっては小委員会という細かくグループ分けて討議をするというのも有効なのかと思いますけれども、これについては今ほど副委員長の方からもお話ありましたけれども、一定の方向、これ済みません、私の個人的考えもありますけれども、議論をしていくという中でどうなのかということもありますので、それについてほかの委員会でもグループでやっているところもないわけでありませぬので、やり方については不可能でありませぬけれども、それについては皆さんの方でご議論いただいた中で、場合によってはそういったこともあり得るのではないかと思います。

以上です。

- 内山米六委員 副委員長にお願いしたいと思いますが、最初にアンケートの話があった。それで、そのうちに自治体間の決まった内容を発表しなさい。そのうちに、女性の意見はどうですか。それ一つ一つ確認していないんです、副委員長さんは。どうしますか、女性の意見を聞きましようかという、そういう提案があったら、それを確認してください。そうしたら、私はこんな発言しません。

- 田中昭平副委員長 今女性の委員が、せっかく吉川さんが発言していたら、あなたが発言しちゃったから……

- 内山米六委員 違います。あなたが筋が通っていないんです。しっかりしなさい。

- 田中昭平副委員長 今せっかくだから、各町村からお考えがあったら話聞きましよう、そういう中で会議を進めましようというようなことで、大体それがそういう方向でよろしいでしょう。その中にせっかくこれだけおられて、女性の方もたくさんおられるんだから、女性の委員の方も、その会議を進める発表の前に女性の委員の皆さんもひとつご意見を出していただければ幸いだというようなことを私がその会の進行として進めたわけです。そして、先生が今そういうような発言をされて、小グループにした方がいいとか、そういう話はまた今の会の進め方のあり方についてしたんですから、会のあり方について女性の方からまだお考えがありましたら意見をお聞きしますということで会を今進めているわけなんです。そのことについてご意見を賜ればよかったんですが、会のあり方について基本的なことを違う、違うというようなことであれば、今せっかく牧村の宮本委員の発言がこういう方向でよいと、こういうみんなでしましようというのは大体大勢がそういうふうに進めましようと言ったんですから、そういう形の中に女性の委員の意見も少しはひとつ出すように努力願いたいということだから、私は取り上げた。そういうことなんです。それでよろしいでしょう。

- 内山米六委員 一つ一つ諮ってください。

- 田中昭平副委員長 はい。

じゃ、女性、お願いします。

- 神岡八江子委員 先ほどから女性の意見をと言われておりますので、柿崎町の神岡です。私も一住民の意見かもしれませんが、一番住民が関心を持っているのがこの新市の名称だと思います。柿崎町も、会う人に私も意見を聞いているんですが、ぜひ新しい市名に変えてもらうように頑張ってくれという意見が今のところ多いんです。

それと、上越市の人たちの認識が、どこと合併するのという人がまだ相当いるような私は気がしま

す。それで、上越市の人も合併するんだ、新しい市になるんだという一体感を持つためにも、ぜひ名称は変えていただきたいと思います。それで、上越市の人たちが自身も何がいいか、何がいいかというような、あちこちでそういう話は、私も仕事を上越市に持っていますので、一番関心持っているのが新市の名称だと思います。ですので、ぜひ私は変えてほしいという意見なんです、よろしくお願いします。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

○大浜啓子委員 隣の大潟町の大浜です。私たちの町では先般町名、字名のアンケートをとりました。そのとき、それは各戸、1戸1戸なんです、2,991軒ですが、1世帯にアンケートを送りまして、その中の回答率が82%だったんです。その中で自由記入欄というか、合併に関する意見を何でも書いてくださいという欄が設けてありまして、その回答、その中に記入してきた人たちは10%。その中で、その10%のうちわずかなんですけども、新市に関する意見がありました。その意見を私も住民の人たちの声として、一番最近の身近な声として尊重したいと思っています。内容としては、できれば上越新幹線、上越、そちらの方と紛らわしいということとか、14市町村が合併するんだから、新しくスタートするんだから、新しい市名に変えてもらいたいと。あとは、具体的にカスガノ市とか、クビキノ市とか、雪、桜、海などの頭文字をとったような名前とか、住民が新しい名前で生まれ変わるんだというような私としては感じを受けたので、そちらの方向に持っていくように私は心をちょっと決めているんですけども、住民の大事な意見だと思います。この新市の名称に関する会なんですけれども、大合併の中では、女性ですのお料理からいうと、あんぱいですか、この辺のあんぱいというか、大事な会だと思っております。そして、住民のそういう一人一人の私たちは大潟町から市になるんだという期待感と優越感というか、そういうのも持っている人もあると思うんです。それで、いろいろアンケートを書いてくれたんだと思いますので、それを尊重していきたいと思ひますし、他町村の方こういうアンケートをとられたと思うんですが、そういう中で感じるものがあつたら、また聞かせていただきたいと思ひます。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

ほかに女性の方。

どうぞ。

○江口理恵子委員 牧村の江口といいます。私は1回目のとき一人一人意見を聞かれたときに、ぜひとも上越市という名前を変えて新しい名前にしたいと言ったんですけど、何回か会合を持ったり、自分でもいろいろ考えているうちに、ぜひ変えたいと思っていたその気持ちが今正直言ってどっちでもいいかなというように変化してきました。それは変える、変えないが大事なんじゃないかと自分の中で思ってきたからなんです。以前木浦市長がよく最初のころ、編入であっても気持ちは対等とよくおっしゃっていました。それを聞いて、私たちみたいな小さな村の者でも何となく安心感というか、ほっとするような気持ちになっていたもんなんです。編入であっても気持ちは対等だということを具体的にあらわす手段がやっぱり全員参加で新市の名称について考えることなんじゃないかと思うので、この際上越市じゃだめだとか、新しい市がいいんだとかよりも、こうやってみんなで話す、このことがやっぱり大事なんだと思うようになりました。ですから、上越市の方も、周辺の町村の方も、みんなが新しい市の住民になるわけですから、十分ここは本当に議論していかなくちゃいけないと、今そんな気持ちです。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

ほかに。

どうぞ。

○細谷愛子委員 清里の細谷です。今ほど江口さんのお話を聞きまして、私も本当に同感いたしました。私も最初の皆さんの順番に意見を申し上げたときには、やはり新しい名前にして新しく一步を踏み出

した方がまたいいんでないかと思ったりして、そしてまた長年この名前とおつき合いをしなければならぬので、新しくした方がいいんでないかのご意見を申し上げたんですが、今江口さんがおっしゃるように上越市でもやはり今まで何十年も上越市で過ごされた方もいらっしゃいますし、また私もすぐ隣の清里で、すぐ上越市の四ツ屋部落もありますので、それに接近し、私は生まれも上越市でございますので、やはりここでいろいろ上越市がどういうふうにもたまたま発展して、皆さんと一市民が手をつなぎ合っていたらいいかというふうに思いますので、やはり変えなくても上越市をという考えで話し合いをした方がよろしいと思います。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

○増村恵子委員 板倉町の増村です。私も準備段階のときみんなで女性の皆さんとお話ししているときは、本当に夢の多いクビキノ市あたりがすてきだよねという、そんな話をしていたんですけども、どんどん話し合いするにつれまして、本当に 14 市町村がみんなで手をつなぎ合って新しい市をつくるという夢を語り合いながら、あのときこの新しく生まれ変わった市がこれからつなぎ合って力を出し合っていくことによって、その市が何色に染まっていくか、きれいな色に染まっていくか、汚い、どろどろな色に染まっていくかというのは、これから私たちの手にかかってくるんじゃないかと思うんです。そのためにも、ぜひ新しい市にということではなく、みんなが力を合わせることによって、また新しいいろんなもっと今よりもすてきな上越市になるんじゃないかと思うんです。実は板倉町の方では、議会さんの方ではぜひとも新市にするべきだ。新しい名前、新市名にするべきだ。ところが、板倉町の合併推進委員の会の方では、板倉町というふうに残せば、上越市板倉町何々というふうになれば上越市でもいいんじゃないか。議員さんの方のお話をよく聞きますと、やっぱり上越市民が新しいこの合併に対する意気込みはどんなふうなのか。上越市民が、ああ、入ってくるんだ、それでいいんだじゃなくて、上越市民ももっと関心を持って、この 13 町村に目を向けて、一緒に手をつないでいただきたいという気持ちがあるそうです。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

○内山美恵子委員 浦川原の内山と申します。私も皆さんの先ほどから意見言われたとおりに、初めにスタートはやっぱり名前を変えた方がいいのかなと思っていたんですが、私も実は直江津出身なんです。合併する前に浦川原に嫁ぎまして、今でもやっぱり出かけるときは上越という言葉は使わないで、直江津へ行って、高田に行くと、そういうふうには言っているもんですから、上越という言葉にちょっとまだなじみが余りなかったんです。それで、一番初めにいただいたこの資料の中に上越のいわれ、よく見ると本当にいろんなところから重く出てきた名前なんだなというのを感じるんです。かえって上越ということもまた新鮮なのかなと思っています。それで、こういう名前を議論することがやっぱり一番大切なのかなと思っています。議論しながら、それでも上越で残れば、またそれもいいんじゃないかと。やっぱり議論が一番いいんじゃないかと思っています。

以上です。

○田中昭平副委員長 1 回、2 回に比べて、女性の極めて核心に触れたご意見を賜りまして大変ありがとうございます。まださらに女性の方ありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田中昭平副委員長 じゃ、この辺で先ほど牧村の宮本さんから提案ありまして、皆さん、このようにひとつ進められてはどうかというようなことで大体皆さんの合意を得ましたので、これから町村ごとにこの新市名ってどう考えるかというようなことについて要約した点、あるいは問題点、あるいは理由とか、あるいは今後の発展的な志向を目指して、新市名はこういうふうにも基本的にも理解して、総合的にそれを深い発展を目指して考えるべきだというようなことで、いろいろ皆さんのお考えあると思いますので、向かって私の右側の方からひとつ要約してお話し願えれば幸いかなと、こんなふう

に……

○近藤一郎委員 済みません。

○田中昭平副委員長 何でしょうか。何か会の進め方ですか。

○近藤一郎委員 大潟町の内山委員さんがおっしゃったときに、審議の進め方については皆さんが承知をしてと、こう言われたんですが、もう言いませんけども、その前に私に、男ですけども、男の意見言わせてもらいたいと思うんですが、いいですか。

○田中昭平副委員長 いいです。じゃ、今の会の進め方について話してください。そうしないと、またもとに戻って……

○近藤一郎委員 そうですか。じゃ、変えます。審議の進め方について、じゃ先に意見述べさせていただきます。

最終的に内山委員がおっしゃられたとおり、じゃこの審議で進め方については皆さんの確認がなくとも言ってよかった。悪いとは言いません。今女性の皆さんが意見言われ、女性の皆さんが中心に新市の名称についての考え方とか、いろいろ意見なり言われたわけですから、次は女性の皆さん、大方の皆さんからご意見をいただきましたので、男性の皆さんの方でもないでしょうかと振っていただきたいんですが。

○田中昭平副委員長 いや、それはあれでないでしょうか。町村ごとにひとつお話しされて、2名出ているんですから、その辺まで余り。今女性の意見聞いたから、それをまちとしての集約的な意見というふうにとらないで、女性としてのフリーの立場で今意見を賜ったんですから、牧村の宮本委員のように町村ごとでどちらかというようなことでひとつして下さって、また再度女性の方発言なさってもいいんですが、その辺は、近藤さん、ひとつご了解いただけませんか。女性が今話したら、今度男性にしろとか、そういうものではないと思うんですけど。

○近藤一郎委員 副委員長、済みません。副委員長に言われた部分については訂正をさせていただきます。女性の皆さんが終わったんで、男性にという部分については割愛ひとつよろしく願いいたします。

じゃ、発言し直しますが、各市町村の考え方を言われる前に私意見述べたいことがあるんですが、発言を求めたいと思いますと、これでいいでしょうか。

○田中昭平副委員長 どうぞ。

○近藤一郎委員 やっと私の意見が言われるようになりまして、それじゃちょっと合併に関するこの意見を述べさせていただきますと思うんです。

この新市の名称については、これだけほかの小委員会なんかがあるんですが、ほかの小委員会なんかには諮られているものは一応の結論を出さなきゃいけないです。それに比べて新市の名称というのは、合併協議会の中では議論をしましょうということになっているんですね、事務局。そこがほかの小委員会でいろいろけんけんごうごう議論しておられるのと私は違うところだと思っているんです。言いかえれば、副委員長がごあいさつで言われた壮大なものも場合にはあるだろうと。私はそういう基本的な考え方に立って、これ前も私言わせていただいたんですが、14市町村が合併をしてより一体感を増すために、新市の名称に対する議論を大いにするべきだと私は思っています。

それから、それには、これは一つ今まで言っていない意見ですが、協議書の文案の中にも出ているんですが、ほかにも意見出て、1回目、2回目ではほかの皆さんからも意見が出ております。上越市が最終的な判断をすることとなると、この辺については私申し上げているのは隣の新井、妙高村、妙高高原町の合併で新しい編入合併なんだけども、妙高市とするという方向でいっていますよね。そういったようにお互いに譲り合うとか、歩み寄るとか、そういった気持ちをより持たなければ私はいかんだろうと。そうでないと、一体感は生まれていかないだろうから、上越市事務局、この辺の考え方を、ほかの13町村の皆さんももちろんそうだと思いますが、ちょっと考え方を少し変えていかないと、そういう努力をしないといけないんじゃないのかなというのが私の2点目の意見なんです。一体感をより増すために議論をしなければならん。じゃ、実質14市町村がより一体感を持つためには私

はアンケートをやると。結果は上越市になろうが、ほかの市になろうが、アンケートをやるとこのがより一体感を持つためにはいいんでは、一つのいい方法ではないかというふうに思います。

それから、もう一つの意見ですが、上越市という名前は変えた方がいいんではないかと。というのは、これも資料いただいています、7世紀ごろでしょうか、上越後。越中、越後、越前から始まって、その越後の上越後、それが上越の名前のいわれだというような、たしか資料いただきました。その当時の上越というのは非常にネームバリューってあったんだと思うんですが、21世紀の今にいろんなところへ全国に目を向けたときに、上越というのは余りにも上州と越後と間違われるということから、私は上越という名前はいろんな事業やったり、より住民の皆さんの一体感を持たすためには変えた方がいいのではなからうかと、こんなふうに考えております。

以上でございます。

○田中昭平副委員長 ちょっと待ってください。わかりました。だから、今町村でこのことについてはどのように考えるかというようなことで、その考え方を、既に近藤さんが発表してくださったようなところなんです、そういうようなこともあったら大いにこの機会に話してもらいたいというふうに思うんですが、どうもそういう面が重複して、今私は率直に言うのは牧村の宮本委員からこのことについて非常に謙虚に、どういうふうに現状思っているのかどうかと、こういうふうなことをすることであって、しかも私は今ここにも議会の代表、上越市からおられますけども、小委員会でも方向づけがある程度はしっかりしたものを議会で全面的に無視して、議会で決めるんだからというようなことは恐らくないと思います。それだけは、皆さん、そういうふうに私はきょうは副委員長としてはっきり明言しますけれども、その点は何か決めても、話し合っても、議会で決めてしまうからというような私たちの素朴な心情を、一番私は重要な一つの拠点資料になると思いますから、そういう意味も十分加味して、議会では十分な審議をしてくださるということ私は信じております。ですから、そんなようなことであくまでも新市の名称については本当にそう思う心をひとつみんな結束して方向づけを決めていこうじゃないか。そういう誠心誠意の集約的な意見というのは必ず全員協議会でも、議会でも、ああ、そうかというふうに私は認証していくものと確信しております。ですから、そんな面をひとつしてもらう。

なお、はっきり皆さんに、さらに会議がまた逆戻りするような形にならないように、一つにどうしてもまとめなきゃいけないという一つの論拠は何もない。それもいいが、こういう考え方もあるという方向性のみ出している。ですから、そういう面でも今吉川さんから出ました波及的な問題について、そういう面も含めてひとつ率直なところをそちらの名立の方面から。

○内山米六委員 今女性の皆さん方から聞いた中で、こうやってみると、議論をしましょうというのが多いわけです。それをその意見も聞かずに、向こうからまちの意見を発表しなさいというのはいかがかと私は思います。今の女性の方々の中で二、三の方が議論するのが一番だと、ベターだという話が出ております。まだ3回目です。先ほど言われたように、まだ3回あるはずですが、この小委員会は、そういう結論めいたものはまだ時期尚早だと思います。だから、もっと議論してください。

○田中昭平副委員長 いや、ちょっと待ってください。議論ということは議論の素材、材料になると思います。町村でどういうお考えか、その一端をしていくので、結論を出せなんて私何も言っていない。

○内山米六委員 いえ、だってさっき宮本さんの言われたことはそういうことなんです。

○田中昭平副委員長 いや、宮本さんはどんなようなお考えであるか、それらを基調に置いてまた協議をしていくということであって、結論の、見た上ですぐ論議をしないですということの考え方ではないということで、今のご発言の方、牧村の宮本委員のお考えとちょっと違うんでないでしょうか。

宮本さん、どうでしょうか。

○宮本富男委員 私が言いたいことは、議論を進めようということなんです、しよせんは。各町村の意見を発表して、それを土台にしてまた議論すればいいんじゃないですか、あっち行ったり、こっち行ったりしないで。それ出た答えを例えばアンケートをしてくれということになれば、ここの文案でアンケートを希望していますとか、要望事項として書けばいいことであるし、また新市名にした方がいい

という意見が多ございましたから、こういうふうになりました。例えばカスガノ市とすれば、これこれ、こういうわけでカスガノ市だとか、クビキノ市にすれば、これこれ、こういうわけでクビキノ市だ。そういうものを書いて、協議会の方に上げて、その協議会がどう結論するかというものはわからんわけです。だから、みんなの議論を聞いて、町村の、自治体の意見を聞いて、そして結論じゃなくして、それをまとめるようにしていくと。一つの土台として、たたき台として議論すればいいんじゃないですか。私は、そういう考え方なんです。議論を封じているわけじゃありません。その点だけは間違えないでください。

○田中昭平副委員長 じゃ、そんなように、よろしいですか、議事を進めて。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田中昭平副委員長 じゃ、要約して、そちらの名立さんの方からひとつお願いいたします。

○塚田正委員 副委員長の方から要約してということでございますので、うちの方も皆様方と同じく議会の特別委員会、それから住民を網羅したところの合併審議会、二つ組織がございます。両方とも上越市ということで結論でございます。以上。

それから、当初私お話ししましたように、上越市という名前がついて既に 35 年近くたつ。その重みというものを皆さんと一緒に考えていただきたい。個人的でありますけれども、上越線と間違わないために名前を変えるんでないでしょう。私はそれを言いたいんです。

以上です。

○田中昭平副委員長 じゃ、次、そちらの方お願いいたします。

○松縄教一委員 三和の松縄です。第 1 回目するときにも申しましたように、議会の特別委員会では一体感を持たせると、先ほどから話出ておりますけれども。また、合併市町村が全国最多の 14 であるというふうな観点から仕切り直しをして、ここで一体感を持たせるために、ぜひいい市名を考えていこうというのが結論なんです。その方策まで話はいっておりませんが、言ってみれば私どもに希望、意見として任されているというふうと考えております。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

次。

○保坂隆男委員 清里の保坂ですが、先ほど女性の方の発言ということで、清里の細谷さんからは推進委員会の方の話をしていただきました。私は、議会の特別委員会の方の状況についてお話をしたいと思います。これ第 1 回するときも申し上げたわけですが、特別委員会としては変更すべきであるとか、変更しないでもいいとかというはっきりした結論は出ておりません。中には、いや、変更した方がいいと、例えば先ほどから出ておりますクビキノ市あたりが一番いいんじゃないかと、こう主張される方もあります。また、中には、いや、やはり今までどおりのでいいんじゃないかと、こういう意見の方もございまして、どちらか一方にというふうな結論づけをしておりません。2 回、3 回くらい話題には出て、話にはのったんですけれども、はっきりして、こちらだというふうに議員としてはまとめてございません。そういう実情でございます。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

○島田武委員 板倉の島田でございます。実は、今隣で増村さんから町の推進委員会の方も先ほどお話ありましたけども、うちの議会の特別委員会では市名をひとつ変更を希望するというところでございます。ただ、その後町の方の推進委員会に私ら代表で二、三の議員の方が行くわけですが、どうしても町の方は、推進の委員の方はその前に一応町でアンケートをとったわけでございます。それは、アンケートの結果というのは私らもちょっと首をかしげる点もあったんですけども、実は町名、字名のアンケートについて上越市板倉町というような意見が多かったもんですから、その方もある程度参考にはしておりますけども、そんなことで今これからまだ 1 回、2 回とあろうと思っておりますので、再度議員の方と、またいろいろ町の方ともさらに煮詰めていきたいと思っております。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

じゃ、次、お願いします。

○豊岡眞一委員 中郷村の豊岡でございます。私ら議会におきましても、特別これの賛否はとってごいません。と申しますのは、いわゆる上越市民の皆さん方の意見を尊重すべきではないのかなという案と、編入であっても気持ちは対等だという気持ちの観点からやはり変えた方がいいのかなという意見が分かれておりますが、これは集約はしてごいません。第1回的时候私申し上げましたが、やはり14市町村の住民の皆さん方の声を聞くのも一つの手ではないのかなと。既に上越の方々はもうアンケートとられて、50%以上が上越市を望むというふうに新聞にも載っております。したがって、先ほどだれかもおっしゃいましたように同じ内容で14市町村がやはりそれを持ち帰って、アンケートをとって変えた方がいいのか、悪いのか、もし変える場合でしたらどのような案がございますかというようなこともつけ加えながら、とっていった方がいいのかと、私自身そう思います。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

じゃ、次、お願いします。

○吉村一博委員 先ほどお話ししましたので、ありません。

○田中昭平副委員長 もう一度要約して話していただけますか。

○吉村一博委員 そうですか。審議の進め方の中についています、その他の議論の中にあります市の名称についての議論を通じてこの市町村合併についての印象を深め、新しいまちの一体感を生み出すような進め方が求められているというようなことが私どもの特別委員会の結論で、その方法についてはこの中で議論をしてこい。そして、上越市については特に変更しろということではありません。上越市というような名称も含めて議論したらどうかということでございます。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

次。

○布施兵衛委員 頸城の布施でございます。頸城村協議会委員内で一応協議をしてあります。上越市の名称をも含めて変更するかどうかということで、住民の意向を知る必要があるだろうということで、アンケートを実施してはどうかと。そして、その中でも名称変更を希望する場合は、これは具体的にその名称についても聞いた方がいいんじゃないかということでもあります。それから、この名称というのは非常に歴史的経緯とか、民俗学的な観点から考えていくということも非常に大切でありますので、そういうアンケートが上がってきたものについての学問的識見を持った人の意見をも聞く場も必要であるというふうに思っております。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

○内山米六委員 大潟の内山です。私どもも特別委員会を持っております。その中で、この新市の名称について協議をしました結果、変更を希望するという結論であります。理由は三つございます。一つは、私ども議会は全国津々浦々研修に出かけるわけですけども、その際上越市の隣町だと言っても余り響きがない。わかっただけない。むしろ直江津の隣町だと言った方がわかりが早いというのがあります。確かに上越市の皆さんにとっては30年という重い歴史があるわけですけども、そういうことは十分理解してはいますが、私どもは旅に出たときにはそういうことが言われるということです。もう一つは、先ほど名立さんが言われましたが、JR上越線との混同があるということ。それから、ここが大事なんですが、地方分権になったときに自主自立が求められます。そういった面では、これからは自治体間の競争が非常に厳しくなる時代に入るんだという認識にいます。したがって、新市の新しい市が協働し、一体感が持てるようになるように、そんなふさわしい、全国に響き渡る、インパクトの強い市名にすべきじゃないかということでもあります。後でまた意見を述べさせていただきますが、私どもはそのようなまとめをさせていただいております。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

○塚田正委員 上越線のことで、上越線の勘違いしておられる関係で、上越線の話の名立を引き合いに出されましたが、今ご意見の中で、発言の中身で、上越線の引き合いを出されましたが、名立と言われたんですが、全く取り違えておられるんでないでしょうか。上越線と間違わないために、そのことで市名を議論するんですかと私は言いたかったの。私は、そういうことは問題にならないということと言いたかったの。

以上です。

○田中昭平副委員長 どうぞ。

○新澤明一委員 柿崎の新澤でございます。柿崎でも特別委員会があるんですが、先般の特別委員会に初めてこの新市の名称というのを出ささせていただきました。まだほんの入り口ですので、これといったあれはなかったんですが、ただ一つ、クビキノ市でいいんじゃないかという意見がございました。特別委員会では意見をまとめたというわけじゃないんですが、これはただ私の私見でございますが、私も名前を変更した方がいいだろうと。というのは、先ほど来お話があったと思いますけど、私も2回目の小委員会のときですか、事務局の方へお尋ねしたら、上越市の市民のアンケートでは、上越市でいいというのが50%、反対というのが17.9%、それから慎重にというのが22%というようなことで50・40の比率でございますので、どうか地元の上越市の皆さんもそういうお考えがありますので、ぜひ変えていただきたいと、このように個人的ですが、まだうちらの方ではまとまっておりませんので、個人的な見解を言わせていただきます。

以上です。

○宮本富男委員 牧村の宮本です。うちの村としては大体議員も半々、それから住民会議という合併検討委員会も半々なんです。私非常に困りまして、じゃ私は新しい名前にしてもいいのかというふうに信任を得てきました。それで、私としては先ほど名立さんが上越沿線とは全然関係ないと言われましてたけれども、よく東京行って同級生等に会いますと、その人たちが上越市と言っても全然わからないと。上越沿線に間違われることはまず70%ぐらいあります。それから、若い人たちも上越市というよりも、先ほどどなたか、高田とか直江津と言った方がわかりやすいというものが結構あるようでございます。私自体も新しい市になったんだから、9万対13万5,000です。それだけの比重があるわけですから、この際変えるんだったら今しかチャンスはないということで変えてもらいたいという希望があります。変えるにすれば、私は具体的に名前を出しますけれども、以前直江津と高田が合併したときにカスガヤマ市という名前がちょっと浮上したらしいんです。再度それを提案したいと思うんです。ということは、カスガヤマ市と言えば上杉謙信で有名です。歴史的な根拠もあるし、文化的からいっても知れ渡っている名前だと思うんです。それで、カスガヤマ市にしたら全国的にも有名でもあるし、世界的にも通じるんじゃないかと。また、将来は道州制の場合には、ここを拠点としてカスガヤマはどうだとか、そういうことにすれば非常にインパクトがある名前じゃないかというふうに考えているわけでございます。

以上です。

○田中昭平副委員長 ありがとうございます。

○丸田伸一委員 大島村の丸田です。上越市の名称を変更するかどうかを含めて議論する、次にするのが新市の名称について議論すると、これはもっともなんですけども、なかなか皆様方の議論が伯仲して前へ進まないというのが事実であるわけでございます。私ども大島村では議会市町村合併協議会と、それから大島村合併推進協議会という二つの委員会がございまして、新市の名称についてはまだ議論してございません。まだ方向性は決まっておりません。近いうちに次回にでもそういった話をこの委員会の話を通して私はまとめていきたいと、このように考えておるところであります。

次に、先ほど副委員長の田中さんが言われたんですけども、このことについてまたちょっと私から意見でございます。と申しますのは、先ほど田中さんが上越市が最終的に判断するんだと、こういうことで書いてありますけれども、私は議会に、必ずそういうことなく考慮するというふうな発言があったわけでございますけれども、ぜひともそういったことを私はお願いしたいと、このようにお願いす

るわけでございます。

以上です。

- 石田敏一委員 浦川原村の石田でございます。よろしく申し上げます。私の考え方ということでございますけども、百年の大計に立った新市の名称をやはり考えていかななくてはならないのかと、私はこのように思っておるわけでございます。私ら合併検討委員会でも議論はさせていただいてありますけども、まだ方向づけはしてありません。私の考えでは、やはり私らに与えられた、委員の皆さんが活発な議論をした中でもって私は集約、方向性というものをを出していくべきかなというふうには思っております。新潟市、長岡市なら恐らく変更はされないだろうと。しかし、上越市ではどうかという気持ちがあるわけでございます。というのは、直江津と高田が合併して上越市になったといういきさつもあるわけございまして、上越市そのものの名前も大変尊重して審議をさせていただかなければならないと、そう思っておりますけども、やはり皆さんから幾つかの三つも五つもよろしいですから、新市、上越市でいいのか、新しい名前があったら出していただいて、そして人気投票というわけにもいきませんが、三つなり、五つなり絞り込んで集約をしていったらいいのかと、私の考えでございます。

以上です。

- 田中昭平副委員長 ありがとうございます。

- 松野恵委員 じゃ、安塚の松野ですが、私も第1回目のときに申しましたとおりで、私ら議会も全員協議会を開き、また合併の委員の方々も了解得て、前の合併の直江津と高田の合併されて33年以上もたって、あのとき大変骨折られて上越市という市名になったんだし、我々安塚としても編入合併であるし、上越市は上越市でよろしいということで、ただし上越市民の皆さんからも声が出て、新しい新市の名称に変えてやれば、それに異存はないということで、今現在は上越市は上越市でよろしいという結論は安塚町としては出ております。

以上でございます。

- 早津輝雄委員 上越市の議会の早津でございます。一番最後でよかったと思っているんですが、これは副委員長さんがここから始められると困ったと思ったんですけど、うまく考えていただいて、向こう回りで、最後でよかったんですが、先ほど副委員長さんが皆さんの意見を体しながらちょっと要約して、言葉はストレートじゃありませんが、少なくとも上越市の議会はここで出た議論を全く無視するというのではないだろうと信じてよかろうと、こういう趣旨のご発言がございました。私も議会を代表して出席させていただいておりますので、それについて全く触れずに帰るということはよろしくないと、こう思っていますので、冒頭そのことに触れさせていただきますが、基本的には田中副委員長さんの、おおむねいいのではないかと、こう思っておりますが、もちろんこの小委員会の最終的な方向性というものを慎重に考え、耳を傾けながら上越市議会が判断をすると。もっとわかりやすく言いますと、この小委員会の最も多い意見に従って市名を決めますということには、逆に言うとならないんです。ならないけども、慎重に耳を傾けながら議会として検討を加えて判断をしていると、こういうことをご理解をいただきたいと。これ以上私は踏み込むことはできません。

私どもも、余り長い話は適当ではありませんが、合併の特別委員会、それから行政側とのすり合わせを含めた対策委員会、一月に数え切れないほど、1週間に1回と言ってもいいぐらいですが、またも、またもという感じでやっております。それで、一番最初、この1回目の会議で、個人的な意見だがと前置きされて8割の人が個人的な意見を言われました。個人的な意見だからと前置きすれば個人の意見言っているのかというちょっと危機感を感じたんですが、最初だから、いいかと、こう思って聞かせていただきました。結構参考になったんですけど、2回目は入り口論議、私はこれは大変有意義だったと思っています。

そして、きょうから本格的に意見が出始めて、女性の意見もお聞きさせていただきました。それらの意見を聞きながらと、こう思っているんですが、やっぱりもう一度原点にさわらせていただきますが、この小委員会は、今私の立場で言うのは言い過ぎかとは思いますが、議論を重ねて協議会に、当

委員会としてはこういう意見がありました。場合によっては一つかもしれませんが、二つ、三つかもしれませんが。他の委員会と違うのはここが違うんです。こういう意見がありましたという、いわば報告です。当市名の小委員会としては、こういう結論になりましたという答申にはならないのではないかと。ここんところをごっちゃにすると、他の小委員会と同じレベルになります。大変自由闊達な意見は結構参考にさせていただいていますが、できればこの小委員会から小委員会までの期間があるということは、持ち帰っていただいて、個人の意見でなくて、住民の意見とか、機関、団体の意見という形でここへ出していただいて、いや、何々町ではこういう意見ありましたというのを持ち帰っていただきながらボールを投げ合って、一つの方向性を3月末をめどにやっていただかないと、最初はいいんですが、いつになっても個人的な意見ですがというのは、例えば市民運動の団体であれば、その中に分科会つくって個人の意見をどんどん出して結構ですが、法定協議会というこの種の性格の中で、1回目はいいけども、最後まで個人的な意見というのは私はなじまないのではないかと、こう思っていますので、ぜひひとつ私どもも十分耳を傾けて議会として考えていきたいと思っていますので、そのような考え方で意見を聞かせていただいて、私も持ち帰りたいと、このところお願いをしたいと思います。

- 田中昭平副委員長 これでは皆さんのご意見を拝聴しました。前回よりも相当に核心に触れた、具体性のある事実について、その現状の分析、そしてまた方向性、それらについて貴重なご意見を賜りました。

きょうは、この会は4時半までなんですが、かなり2時間も経過したんですが、今3時40分をちょっと回ったようではありますが、ここで10分ほど休憩した方がいいんじゃないかと思うんですが、お手洗い等の関係もあると思うんですが、続行しますか、どうですか。休憩した方がいいじゃないですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 田中昭平副委員長 じゃ、4時まで休憩して、4時より再開にします。

一たん休憩します。

午後3時52分 休憩

午後4時02分 再開

- 田中昭平副委員長 じゃ、おそろいでありますので、4時半終了でございますが、4時20分過ぎには終了する段階でひとつご協力願いたいと、こういうふうに思います。

今ほど大変第2回よりも1段も2段も次元の高い、いわゆる新市名についての方向性について、具体的な町村の実情、背景、そしてまた希望、将来の新市の発展を期してというようなことでのいろいろご意見を賜りました。大変結果的によい集約ができたと思います。

それで、今ほどせっかく女性を初め皆さんから貴重なご意見を賜りましたので、これをやはり集約をして、次の回に発展的に持っていかなきゃならないというようなことで、事務局では皆さんの発言を録音とってありますので、一語一句またきちんと議事録整理してくださると思いますが、集約して、今副委員長として集約的な意見を述べますから、それにさらにこの点をもう少し入れてもらいたいとか、この考え方がさらに欲しいとかいう点がありましたらひとつご遠慮なく議論というのは極めてこの小委員会全員の集約した意見を背景にして事を進めなきゃなりませんので、その点をひとつお願いいたしたいと思います。

それで、まず第1に考えられることは、各町村においては新市名という内定をくみした形においてまだ結論に達していないと。その新市名について、さらに具体事項について住民と、あるいは関係機関、議会と十分検討した上で、きょうの話合った基盤をもとにして、さらに発展的な方向になるような集約した意見を次回に持ち寄るといったようなことであります。

第2点は、上越市に編入合併をするというようなことで、この33年の長い歴史的背景に立って、新たな21万の市民がこの上越市というような名前のもとに、市名を変更しないで、新しい気持ちで組み入れて、結果的にはそういうふうなこともいいのではないかとのお考えもお持ちではありますが、

これは出された方の決定的なご意見ではない。そういう考え方をご披露された方もあります。

第3点として、これを機会に、いわゆる編入合併を機会に14市町村、21万の市民、住民の背景に立って、新たな一つの観点から、新市名をこの際に上越市の市名を変更して、新市名にしたらどうかという考えのご意向がありました。

さらに、その中には新市名ということについて具体的にクビキノ市、カスガヤマ市というような具体的な市名を参考にご発表されたご意見もありました。

さらに、これらの案件についてさらに広く住民の意向を再確認するというようなことで、アンケートというような方法によって再度新市名に対する住民全体の意向を抽出調査によって参考資料とするというようなことも一つの事を進める順当な方法論の一つではないだろうか、こんなようなことにします。

最後に、上越市の方から市議会議員として早津委員の方からご発言がありましたように、あくまでこの小委員会は諮問にこたえて意見を集約する。そして、方向性を打ち出す。一つに全員一致でまとまるか。それとも、二つ、三つというような形でまとまるか。そんなようなことで、その結果については全員協議会、最終的には上越市議会でこれらの意向を踏まえて議会で最終的に議決して決めるというようなことでございます。

そんなようなこともまた確認して、私が今皆さんのを一応記録にメモしてありますが、また報告すると約40分ぐらいかかりますので、この程度にまとめたいんですが、さらに今私が申し上げたことについて、きょうの会議の集約的な事項について、さらにこれはどうだ、これはどうだということがありましたらご意見を賜りたいと、こういうふうに思います。以上です。

町村名と名前言ってください。

- 吉村一博委員 吉川町議会の吉村です。まとめていただきました。その中の4番目になります。すべて書きとめてごさいませんので、もし間違っていたら教えていただきたいんですが、住民の確認をするような意見があったと。それも、アンケートも含めてというような話でしたが、その中につけ加えてほしいのは、新しいまちの一体感が生み出されるような、そういう仕組みの中でアンケートも必要だろうというような、そういうようなまとめにしていきたいんですが、それはどういうことかといいますと、前回もそういう議論があったわけですから、確認というよりも市町村合併についての認識を深め、新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みでアンケートも必要ではないだろうかというようなことで意見を申し上げます。
- 田中昭平副委員長 このアンケートの内容的に含まれる附帯事項として、新しいまちの一体感が生み出されるような取り組みが求められていることも考慮する必要があると、こういう内容も十分くみしてアンケート調査を実施すると。皆さん、よろしゅうございますか。アンケート調査実施するというのはあれじゃなくて、アンケート調査をする方法論の一つに今言っているわけで、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 田中昭平副委員長 じゃ、これは。

そのほかございませんか。

- 早津輝雄委員 副委員長の方から、私のメモでは6点にわたって、きょうのところの集約ということで、最終的な集約ということではないと信じておりますが、今話題に上った抽出という方法を含めて住民の意向を再確認していくと。わかりやすく言えば、アンケートということではありますが、このアンケートそのものの意見があっても、それはおかしいとは言いませんが、具体的な形が見えないのと、それからアンケートをすべきだという大半の意見があったにしても、じゃ14市町村でアンケートするのかということ、ここも大変問題ありますし、先ほどこの集約の前に、それは各町村が対応すべき問題だという意見もありました。それは各町村でどうおやりになるかと、私が言及する立場にありませんが、この会全体としてアンケートということが例えば小委員会継続していく中で最後のまとめとしてそれが一つの項目として浮上したにしても、その具体性がどうなっていくのかということも意見を

出し合っただいかなきゃなりません、この時期に全体を網羅してアンケートをとるということはどうもなじまないのではないかと、こう私は思っていますし、私もこの会に参加して、きょうのこの一つの方向性であるけども、アンケートということに一つの集約はなりましたという報告はできかねます。

○田中昭平副委員長 先ほどは、アンケートを実施すること一つの方法の意見であるというようなことで、アンケートを実施するかどうかというのは今ここでは決定できない。今上越市の議会議員の早津さんから大変また重要なご意見を賜ったんです。ですから、今の時点でこれだけ進行しておいて、アンケートをとる、とらないというようなことに対するものは、アンケートというのを実施しても大変不可能でないかと。信憑性の高いアンケートをとるには、先般事務局から話がありましたように約90日ぐらいかかるというようなことで、合併協議会の推進の進め方と予定との関係において、果たしてそういうものがどうか。そして、アンケートの結果がこうだから、こうすべきだというようなことは、この小委員会としての諮問に対する意見集約として出すことはできても、これがイコール決定ではないというのは、これは皆さんご承知なんでありますが、今アンケートということについて早津委員の方から非常に重要な問題を投げかけていただいたわけですが、この点についてもう少しまだ時間若干ありますので、さらにこのアンケートを実施する方法、否やどうかと。こんな点にももしありましたらご意見賜りたいと、こんなふうに思いますが。

○宮本富男委員 牧村の宮本です。アンケートについて、私が第1回目のときにアンケート調査をした方がいいというふうに提案申し上げました。そのパーセントだとか、人数だとかいうのを申し上げました。しかし、今ここで議論になっていることは、アンケート調査を望む意見が小委員会では多いというようなことぐらいは書けるんじゃないですか。その結果、どのような方法でやるかということは法定協議会を外れるのかどうかわかりませんが、また別に研究してもらえばいいことであって、私たちはアンケート方法までは別に検討しなくてもいいと思うんです。だから、小委員会の意見としてアンケート調査をし、住民の意思確認、いろんなもっと細かいことを書かれるでしょうけれども、そういう形で意見がありましたという意見は文案として載せてもいいんじゃないですか。恐らくそこまでしかいけないと思うんです。

以上でございます。

○田中昭平副委員長 じゃ、どうぞ。

○内山米六委員 住民アンケートの件なんですけど、私も牧村の宮本さんに賛成をします。ただし、3月までにこの協議が打ち切りということになっていきますので、その段階までにアンケートを実施して結論を出すということは不可能だというふうに思います。したがって、この合併が成立したとき、廃置分合後これはぜひアンケートをやるべきじゃないかというふうに思います。ぜひ参考にさせていただきたいと思いますが。

○田中昭平副委員長 それは、合併成立後のアンケートというのは新市名についてのアンケート。

○内山米六委員 そうです。

○田中昭平副委員長 なるほど。

ほかに。なければ、じゃ今最後にまた早津委員の……

○布施兵衛委員 頸城村の布施です。アンケートを実施する場合、これ上越市からの資料だと思いますが、所要日数、大体70日前後ということですが、事務方に聞きますが、合併スケジュールあります。この中でやるとすれば、いわゆるいつごろ一番適當になるのか、そこら辺の判断。

それから、早津さんに、アンケート調査というのは今意向としては随分上がっているわけですが、これなぜ今のようなご意見が出るのか、もっと具体的に説明をいただきたいと。

○田中昭平副委員長 ほかにございせんか、アンケートについてさらに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田中昭平副委員長 もしなければ、再度また上越市の早津委員の方からアンケートについてお願いいたします。

○早津輝雄委員 牧村の宮本委員さんから、具体的な方法論をまとめていくんでなくて、やはり住民の意見を聞くべきだと、聞くべきだという方法としてアンケートと、こういうことの範囲で文言整理すればいいんであって、14 市町村、13 町村という具体的な話はそこへ入ってはいないんですが、背景として住民の声を聞くべきだというのは十分理解できるんです。意見もこれまでの小委員会でも多かったですから、それは考え方として間違っていますということを言っているのではないんです。ある意味では、正しいのかなと理解しています。しかし、具体的にここんところ3月末までは実施するのは無理だけでも、上越市の皆さん、もう一度ひとつアンケートとってくださいということを考えていらっしゃるのか。我々、ということは皆さん、我々の参加住民を含めてやってくださいというふうに言っているのか。そこが漠然としていて見えないんです。むしろ皆さんから、それによってすぐ私は回答する立場にありません、それはまた持ち帰りますが、そこんところちょっとまだ見えないので、もう少し聞かせてほしいと逆にお聞きをしたいところであります。

○田中昭平副委員長 とうとう時間も参りまして、近藤さん、じゃそこで終わりにしますが、ひとつお願いします。

いいですか。時間過ぎますが、よろしいですか。皆さん、いいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○田中昭平副委員長 じゃ、どうぞ。

○近藤一郎委員 早津委員さんがおっしゃられたことに対してですが、私が先ほど申し上げさせていただいたのは14 市町村の住民を対象に抽出するのかどうか。いろんな技法はあると思います。それは別として、14 市町村の住民の皆さんを対象に、合併前にこのアンケートをやった方がいいと。そして、それは合併前に14 市町村の皆さん全員が全く同じことを、それ全員になるかならんか別として、14 市町村の皆さんが同じことをやると。そのことによって、合併による一体感をより増すには効果があるのではないのかなという、私はそういう意味合いで先ほども申し上げさせていただいたというふうに思っております。

それから、私も宮本委員、それから内山委員おっしゃられるのと全く同じ意見でございます。あえて一言申し上げさせていただきます。

○石田敏一委員 浦川原の石田でございます。先ほど副委員長のまとめの意見といたしまして町、村の意見を集約してきていただきたいというお話でございました。集約するというところでございますけども、やっぱりある程度方向性というものを出していただいて、村、町の集約ということになればアンケートも必要でございましょうし、いや、そこまではという意見もあったかと思っておりますけども、次回までに集約してこなければならぬということであれば、はっきりとした方向性を出していただきたいと思っております。

○田中昭平副委員長 私は、集約という言葉を使った自体に、また議論が出たんですが、これだけの具体性を持った内容がかなり進展したきょうは会議でした。だから、きょうの会議の雰囲気念頭に置いて、まだはっきり結論は出ないんですが、さらに踏み込んで、どんなもんだろうかというようなことで、個人の代表の委員としての発言じゃなくて、あるいは機関とか、あるいは政治の議会の団体とか、あるいは住民の代表の機関の代表の皆さんと機会があればきょうの会議の模様を話して、これについてはどうだろうか、これについてどうだろうかというようなことを意見を集約して、次の会に持ってきていただくと、非常にこの次の会が生きたものになってくるんじゃないかと。そういうことの意味なんですが、皆さん、よろしいですよ。そういうことなの。

○石田敏一委員 持ち帰ってと。

○田中昭平副委員長 そう。そうしないと、ここでただ出て、それはそれで自分のこと言っても、かえって、おまえ、何でそんなこと言ったなんて後で言われても困る。私らもまた困っちゃうんです。皆さんの町村の代表の委員として私は議事録とめたわけですから、そういうことがあるから、皆さん、ひとつ必ずきょうの雰囲気をもち帰って、またひとつ次の発展のためにしてくださいと、こういうことです。

○内山米六委員 大潟の内山ですが、副委員長さんの方から非常にいいまとめをしていただいたわけですが、このまとめの中ではっきりしてきたのは、要するに上越市のままでいいと、要するに変更しないということと、変更を希望するということが、もう一つあったと思うんですが、どちらとも言えないという方いらっしゃると思います。そろそろ次回からは、それらについての理由づけをしていく必要があるんじゃないかと思うんです。要するに現在のままでいいという方と、変えた方がいいという人と、そのままでいいという人のそれぞれの意見を付して、最終的にはそのままでいい人が二つのどちらかに入ればというふうに思いますけども、そうでなくてもいいとしても、最終的にはその三つを併記するような形でまとめ上げていくというような方が私はいいような気がするんです。無理して変えろとか、変えないとかという形よりは両論併記、あるいは3者併記という形でまとめ上げていただいていた方がいいんじゃないかと。

それから、もう一つお願いなんですけど、上越市の議会を代表されている早津先生に申し上げたいと思うんですけども、議論はいいと。それで、その内容お聞きしますと、事務局に立つようなことじゃなくて、みずからも議論に参加していただきたいというふうに思いますし、その議論を最終的にこの雰囲気、まとめが出てくると思うんですが、それは市議会の中で代表としてこの小委員会の内容をしっかり議会に伝えていただくと。これは物すごく大事なことだというふうに思いますので、私は議会の代表だからということで議論に参加しないというようなやり方は私は慎んでいただきたいというふうに思いますし、尊敬する早津先生でありますので、ぜひお願いしたいと思います。

○早津輝雄委員 大潟町の内山委員の意見はそういう意見もあったと参考にいたしますが、事務局も大変、事務局を褒めるのは余りいいかどうか別として、いわば昼夜兼行くぐらいな事務量の中で、この小委員会終わると、間もなくどなたがどういう発言した、せきしたのまでは入っていませんが、つまびらかに文言にされて議員に配っておられるんです。だから、私が説明するよりも議事録の方が早いくらい伝わっているんです。そうなんです。きょうのやつも間もなく伝わります。きょうは無理ですけど、それぐらいスピーディーに、いち早く議会にというか、議員に報告されていますので、その辺のご心配は入りませんが、私も発言させていただいてまして、消極的に向かおうなんて思っていますが、どうしても編入側から来ている関係から全く同等、対等なんですけど、皆さんの意見をしゃべりまくるんじゃないかと、聞く姿勢といいますか、ここをちょっと大事にしているんです。ですから、皆さんよりも一歩も二歩も前へ出ない部分があるかもしれませんが、聞こうとしているんだなということでご理解をいただきたいと。

以上であります。

○田中昭平副委員長 それから、今大潟の内山さんから第1点、全く次回の会議は常に発展的方向に持っていかなきゃならない。そのために今内山さんがおっしゃいました、無理やりして一つにまとめるとのことじゃなくて、それが二つになるのか、三つになるのか、できれば最終的にそういう結果になったということであればそういう形でやっぱりいくというようなことで、常に先は一つにしなきゃならないというようなことでいきますと、そこに皆さんの意見とか、考え方が非常にやっぱり虚偽、曲げてとられるおそれがあると。だから、そういうところで議論は常に相和して、平等の理念に立って、考えて進めていくというふうなことで、内山さんの第1点に対する考え方はそのとおり今後進めていきたいと、こんなふうに思います。ありがとうございました。

2 その他

○田中昭平副委員長 じゃ、ちょうど4時半となりましたが、まだ皆さん、ちょっともう少しおれは発言したいんだがということもありますけれども、まだ次回もありますので、本日は貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございました。それで、本日のご意見を含め、またこれまでの議論等も踏まえ、事務局に報告案を前提としたまとめを作成してもらいます。次回はそのまとめに基づき、議論を進めることになるものと考えますので、皆様よろしくお願いたします。なお、きょうご欠席された笹川委員長には本日の内容につきまして申し送りをさせていただきます。

最後になりましたけれども、ふつつかな委員長の代役で皆さんに大変なご心配をおかけしたということ深くおわびしながら、これをもって閉会にいたしたいと思うんでございますが、よろしゅうございますか。

○吉村一博委員 まとめについてもっと早目にいただけませんか、当日じゃなくて。

○田中昭平副委員長 事務局、どうでしょうか。

○小菅宏造事務局総括 早津委員からお褒めの言葉いただいたばかりでございますが、議事録等正確さがございます。努力いたします。当日じゃなくて、できるだけ早くという努力をさせていただきますが、やはりデータからテープ起こしからすべてになりますと、時間は多少ぎりぎりかかるところでございます。努力させていただきます。

○田中昭平副委員長 さらに、事務局から連絡ひとつお願いいたします、次回の会場の件について。

○小菅宏造事務局総括 済みません、次回の連絡ということでさせていただきます。協議会の終了の際にもご説明申し上げましたが、次回この委員会は3月6日、土曜日の協議会、14時からでございますが、協議会終了後ということになります、三和村村民体育館で開催されることとなります。場所が変わりますが、よろしくをお願いいたします。3月6日、土曜日、14時からの協議会終了後ということでございます。本日は、大変ありがとうございました。

○田中昭平副委員長 じゃ、以上をもちまして第3回新市の名称に関する小委員会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

午後4時32分 閉会

上越地域合併協議会小委員会規程第10条において準用する上越地域合併協議会の会議の運営に関する規程第3条第2項の規定により署名する。

副委員長 上越市町内会長連絡協議会会長

牧 村 議 会 議 員

柿 崎 町 議 会 議 長